

SAC 会議(2010 年 2 月)出席報告

(社)日本証券アナリスト協会
理事・教育第二企画部長
金子 誠一

2 月 22 日、23 日の両日、ロンドンにおいて開催された国際会計基準委員会財団(IASCF)の基準諮問会議(SAC)*の概要について下記のとおり報告します。

*国際会計基準審議会(IASB)に対し、検討事項やその優先順位をアドバイスするための組織。委員は 45 名強。日本からは証券アナリスト協会代表の報告者(金子)に加え、経団連代表の米家正三伊藤忠商事常勤監査役が委員。他に金融庁から 1 名がオブザーバー(発言権あり)で参加。SAC 会議は年に 3 回、ロンドンで開催される。今回は、金融庁からは園田周企業開示課課長補佐が出席。

記

1. 要旨

今回の会議における大きなテーマは、前回会合に続き「2011 年後の議事日程」であった。

IASB は FASB (米国財務会計基準審議会) との覚書 (MOU) に基づき、2011 年 6 月までに多くの基準を開発することを明確にしているが、その後のスケジュールは白紙である。この背景としては、①米国が 2011 年に IFRS の採否を決める予定であること、②2012-13 年頃に IFRS に移行予定の国が多くあること(移行直後に多くの変更をさせるのは好ましくない)、③2011 年にトゥイーディー議長をはじめ、数名のベテラン理事が退任期を迎えること、が挙げられる。

今回は具体的な議事日程には踏みこまず、戦略的に方向性について議論したが、①これまでに開発した基準のレビュー、②IFRS ブランドの確立、③概念フレームワークの整備、が重要であると言う意見が多かった。

2. 議事一覧

番号	日時	議事
(1)	22 日 10:15-10:30	開会・議長挨拶
(2)	同 10:30-11:30	最近 4 ヶ月の動向
(3)	同 11:30-12:20	NSS 等の動向
(4)	同 12:20-13:00	SAC 委員の活動動向
(5)	同 14:00-15:40	XBRL とディスクロージャー
(6)	同 15:40-17:30	2011 年後の議事日程
(7)	23 日 8:00-9:00	投資家委員との朝食会合(非公開)
(8)	同 9:25-11:35	2011 年後の議事日程(続き)
(9)	同 12:00-13:00	効果分析

(10)	同	14:00-15:00	運営問題(非公開)
------	---	-------------	-----------

*会議資料は下記から入手できる。

<http://www.iasb.org/Meetings/SAC+Meeting+February+2010.htm>

*会議の録音は下記で公開されている(非公開部分と教育セッションは除く)。

<http://www.iasb.org/The+organisation/Advisory+bodies/The+SAC/SAC+meetings/Meeting+audio+playback/SAC+Meeting+audio+playback.htm>

3. 議事概要

上記の番号に従い、報告者の発言を中心に、日本からの参加者の発言要旨にも触れながら議事概要を紹介する。

(1) 開会・議長挨拶

議長・副議長より挨拶、および前回(09年11月)会議以降の活動について総括。チェリー SAC 議長は IASCF(国際会計基準委員会財団)が最近の定款改正にともなう声明文で、「コンバージェンスは目標ではない(アドプションを重視する)」と述べたことに対し、「重要な位置取りの変更」と解説していた。

(2) 最近4ヶ月の動向

トゥイーディー議長およびIASBスタッフから前回会議以降のIASBの活動を中心に報告。トゥイーディー議長より、IASCF 定款改訂に関連し、Financial Times にIASBのコンバージェンスに対する姿勢が後退したとの記事が掲載されたが、これは誤った記事であり、FT に対して抗議を行った¹との紹介があったほか、IASBはFASBとのMOUプロジェクトを期限までに必ず進めていくとの発言があった。

米家委員から次のコメントがあった:IASBがFASBとのコンバージェンスを進めている努力に謝意を表すると共に、2011年6月までに完了するようサポートしたい。ただし、基準のコンバージェンスを優先するゆえに、質と他の基準との整合性を犠牲にすべきではないと思う。次に、財務諸表の表示プロジェクトに関し、直接法キャッシュフロー表や費用の機能別および性質別開示のように、コスト・ベネフィットで見合わないと思われるもので、多数が反対しているものは再考して欲しい。

この質問にはトゥイーディー議長から次の回答があった:第1の点については、質や整合性に十分に配慮しながら基準開発をしているつもりである。第2の点に関しては、直接法キャッシュフロー表には反対があることは理解している。賛否双方の意見を聞いて最終的に決めたい。ただし、調整表の提案を取り下げるなど、従前に比べればすでに簡素化を決めている点もある。性質別費用も本表ではなく注記で開示するよう提案している。

¹

<http://www.iasb.org/News/Announcements+and+Speeches/Trusteesconvergencesupport.htm>

(3) NSS等の動向

マッキントッシュ NSS(各国基準設定主体会議)議長より、NSSの活動報告、エネフォルセン EFRAG(EUの会計基準認定組織)議長より、EFRAGの活動報告。エネフォルセン氏は欧州がIFRSの一部をカーブアウト(適用除外)したことに触れ、これがIFRS採用の唯一の方途であったと説明した。

エルファルト SEC 副主任会計士より、SECの活動報告がある予定だったが、2日後の24日にIFRSの採用予定について発表があるとのことで、この日はノーコメント²。

(4) SAC委員の活動状況

SAC委員から所属地域や組織内の特記事項について説明。概ねポジティブな報告が多かった。

園田オブザーバーから次の報告があった：最近の日本の規則改正の動向として、国際的に活動する上場企業で2010年3月末以降の連結財務諸表へのIFRSの任意適用の開始を認める規則改正を行った。同規則改正では、米国基準の日本企業への適用を2016年3月末以降認めないとしている。日本で用いている指定国際会計基準は現在のところカーブイン・カーブアウトのないPure IFRSであり、IFRS9も含め、昨年7月から12月末までに策定された基準を指定国際会計基準に追加することを、1月20日から本日(2月22日)までパブリック・コメントに付しており、問題がなければIFRS9が日本でも用いられる。

報告者は次のコメントをした：Corporate Reporting Users Forum (CRUF)を日本でも立ち上げた。CRUFは2005年に英国で始まり、その後、ドイツ、オーストラリア、米国でも組織された、財務諸表ユーザーのゆるやかな組織で、会計基準について積極的に発言している。日本CRUFのメンバーは現在17名。月1回、会合を持ち、現在は金融商品の減損公開草案について検討している。財務諸表ユーザーは比較可能性の向上のために、世界で唯一の会計基準を採用することにはほぼ全員一致で賛成であろう。ただし、個々の基準についての意見は地域的に大きく異なることがある。これは、それぞれ異なったマーケットで活動しているので当然とも言えるが、ユーザー間のコミュニケーション欠如もその一因ではないかと思う。日本CRUFはこの地域間意見相違の縮小に貢献したいと考えている。

(5) XBRLとディスクロージャー

XBRLに関する、IASBにおける最近の取り組みの報告。次の2点の問題提起に対し、SACメンバーの意見が求められた。①XBRLで本表データも注記データも開示されれば、ユーザーはこれを自分の好きなように加工できるので、生数字だけ出せばよく、定型的な様式で財務報告をする必要はなくなるのではないか。②XBRLによれば、極めて詳細な勘定科目開示が可能になる。極端に言えば、会社の帳簿全てが開示できる。そうしたニーズはあるのか。

定型開示については必要であるという意見が多かった。

報告者は次の意見を述べた：この問題を考えるためには、投資家あるいはアナリストを2

² 24日に発表された内容は、いくつかのチェックポイントを設けた上に、2011年にIFRS採否を決定するというもの。一部には大統領やSEC議長が代わったことにより、後退するのではという憶測もあったが、2011年決定と言う当初日程は維持された。

種類に区分すると分かりやすい。第 1 のタイプはクォンツだ。彼らは全ての会社の全ての財務データをコンピュータに打ち込み、様々な財務指標を用いたスクリーニングを繰り返して、最終的な投資先を決める。彼らにとっては定型データの提供は生命線である。なぜなら生データのみでは、これを望ましい様式に加工するために膨大な時間が必要になるためである。クォンツは別としても、例えば純利益のような公表財務データはアナリストがその信頼性や持続性についての「解釈」を競うベンチマークである。ベンチマークなくして仕事はできない。だから世界中のアナリストがどのような様式の財務報告が欲しいか論争しているのである。IASB が財務諸表の表示プロジェクトであちこちから叩かれ、XBRL によって報告様式の問題はなくなると夢見ることが理解はできるが、投資の現場からは非現実的な夢だと言わざるを得ない。

さて、第 2 のタイプのアナリストはリサーチ・アナリストと呼ばれる。特定業種の 10-15 社を担当し、1 株当たり利益を予想するのが仕事であり、このために独自のモデルを用意している。XBRL がより詳細なデータを提供できれば、彼らのモデルのインプットが増え、予想はより正確になり、その結果、株価はより合理的に値付けされ、よって資本市場の効率性は向上し、これは全ての人にとってメリットをもたらす。企業は財務報告を XBRL で提出するので、既に詳細データを持っており、その開示はほとんど追加コスト無くして可能である。日本のユーザーは特に詳細データ開示について高い関心を持っている。なぜなら、現在の日本では多くの勘定科目が開示されており、IFRS を採用すると開示勘定科目数が少なくなって十分な分析ができなくなるのではないかという不安を持つユーザーが多いからである。XBRL はこうした不安を除去する可能性を持っている。

(6) 2011 年後の議事日程

IASB は 2011 年までは詳細な基準開発予定を持つが、その後は未定になっている(この背景等については上記 1.参照)。IASCF の定款上、SAC の目的は「議事日程について IASB にアドバイス」することになっており、当議題が前回に続き今回もメインイベント。

このセッションは小グループに分かれて行われ、報告者は投資家グループに所属。当グループでは次の点が重要であると結論した。

①ブランド

IASB 創立以来の 10 年間を総括し、次の時代に備えて顧客と商品を明確化する。

②ガバナンス

モニタリング・ボード、トラスティーズ、ボードのあり方の検討。

財政基盤の確立=IFRS 採用国からの拠出拡充。

③基準

危機対応・概念フレームワークを除いて、新規開発は抑制、これまで開発した基準の浸透を図る。

④一貫した適用と解釈のためのフレームワークづくり。

議論の過程で次の発言をした：IASB の最近開発した基準で純利益の定義が変化しており、2011 年後の早い段階で概念フレームワーク・プロジェクトで、純利益・包括利益・リサイクリングの問題を取り上げるべきである。

(7) 投資家委員との朝食会合

投資家からの意見聴取を効率よく行うにはどうしたら良いかが主たるテーマ。多くの投資家に配られる1枚紙の要約資料を作って欲しいといった要望があった。

次のコメントをした：IASBの意見聴取には自分でも対応したし、専門外のことは専門家を紹介した。ただし、調査のフィードバックがないのが問題。フィードバックがあれば次の調査へのモチベーションになるし、他国の投資家の意見が知れて勉強にもなるので、是非お願いしたい。

一般的な話に移り、トゥイーディー議長から次のようなコメントがあった：金融商品についてなぜ全面時価にしなかったかと言われるが、全面時価を求める意見は多数ではなかった。米国との相違も指摘されるが、FASBはまだ公開草案を出しておらず実際どのようになるのか不明である。米国ではSECがコンバージェンスに向けてFASBを後押しすれば事は進むだろうが、米国議会がロやかましくなっており、SECが動くためにも投資家のサポートが必要である。

(8) 2011年後の議事日程（続き）

このセッションは前日の小グループ討議を踏まえた、全体討論。各グループから、前日の議論の内容について報告があった。内容は概ね類似していたが、開示フレームワーク検討、基準に対するガイダンスの作成や見直しが重要と言う指摘もあった。なお、評議員とも議論すべきとの意見も出て、次回会議(6月)に行うこととした。11月の会議で文書で提案をまとめたいというのが議長の意向であった。

(9) 効果分析

IASBが基準改訂を公表する前に行っている、基準が及ぼす影響分析の手法について説明が行われた後、影響分析手法の適切性や改善の余地があるかについて、SACメンバーの意見が求められた。

主に規制当局の代表から発言があり、マクロ・ミクロ両面からの分析、定量・定性両面からの分析、幅広く多様な視点からの分析等が必要であるとの指摘があった。

園田オブザーバーから次のコメントがあった：IFRSが国際基準であるからには多くの関係者に与える影響を把握する必要がある。最近の基準改訂は理論偏重の傾向があるが実務的に実行可能かという視点も重視すべきである。

(10) 運営問題

SACの運営問題について。事務局から、導入したSharePointというソフトについての説明等が中心。

以上